

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000488		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「夕焼け小焼け」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥408番地1		
自己評価作成日	令和元年7月29日	評価結果市町村受理日	令和元年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171000488-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白鳥町中心に近いという環境の中で、地域の方との交流を深めながら、その地域の一人としての意識を持ってもらい、また日々の生活の中でいきがいを感じていただき、楽しく穏やかに生活していただけるような空間作りを提供できるように取り組んでいる。
医療法人社団 福寿会としてグループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入所者生活介護、短期入所生活介護、居宅支援事業所など各施設と連携をとりながら、入所者様やご家族様の希望に沿った総合的な支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、歴史ある古い町並みの中にあり、地域の高齢者を支えながら、地域医療の中心的役割を担っている医療法人が運営するグループホームである。地元で栽培される米や野菜、果物等を食材に使い、慣れ親しんだ味付けで提供し、食べる楽しみに繋げている。地域住民との交流も積極的に行い、職員は、利用者の生活の質が落ちない支援に努めている。また、重度化や終末期を迎えたとしても、医療法人社団の強みを活かしながら、本人・家族の安心に繋がるようケアに取り組んでいる。さらに、若者雇用促進法に基づくユースエール認定を取得し、認定企業として地域の人材育成や雇用にも尽力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「見守ります。見逃しません。笑顔を引き出します」の理念を共有し、利用者様の笑顔を引き出し穏やかな生活を過ごしていただけるよう努めている。	職員一人ひとりが認知症介護の基本を理解し、「否定しない・命令をしない・傾聴の姿勢」等、常に心にとめて介護にあたり、職員会議やミーティングで共有している。利用者の変化を見逃すことなく、寄り添いながら笑顔を引き出すケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外気浴・散歩時の交流や中高生の職場体験の受入をしている。また、春・秋の祭礼、盆踊り会場と駐車場を利用いただいている。	学生の福祉体験受け入れを継続している。近所の子どもが犬を連れてきたり、幼稚園児の鼓笛隊訪問もあり、日常的に子供たちとの交流も多い。地域の音楽ボランティアの訪問もある。また、地域の行事や盆踊り会場として場を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修等の講師としてグループホームの実践経験をいかしている職員もいる。この知識を地域の方より相談があれば、説明して理解していただけるよう対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は日頃の申し送りやケア会議で職員に伝えてより良いサービスができるように努めている。	運営推進会議は定期的開催し、自治会長・行政・民生委員・各施設関係者等、多くの参加者があり、コスモス苑内で家族代表と共に合同で行われている。事業所の取り組み状況の報告、意見交換しながら、運営に反映させ、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談員がや来苑されて利用者様の意見を聞き職員の思いを伝えている。また、隣接している施設と連携を図り、相談や意見を聞き、サービス向上につなげている。	困難事例の相談や制度上不明な点など、直接窓口に出向いて指導を得たり、電話やメールでも相談している。若年雇用促進のユースエール認定についての話があり、書類作成等の協力を得て、優良企業として認定された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全のために玄関の施錠は行っているが、やむを得ない場合の身体拘束については、毎月のケア会議で継続や解除について協議し、解除の可能なケアに努めている。	身体拘束をしないケアについて、毎月ケア会議で協議している。職員は、拘束による弊害や危険性について、常に意識して支援しているが、人手が足りない時や転倒の危険性が大きい場合は、家族と相談し短時間でのベルトの使用や4点柵等を使用しているが、期間を限定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会参加した人は、ケア会議等で報告をして全職員が知識を学ぶ機会を設けている。職員は利用者様の立場になって安心して生活していただけるように努めている。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されていた方が過去に入所してみえたので、今後このような知識が必要になってくると思う。勉強会等があれば参加したい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ケアマネがご家族様に施設見学などしていただき、納得と安心をしていただけるように説明して、十分な説明をして理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や年に2回の家族会議で意見を聞き反映している。また、面会にみえたときに様子を伝え、また意見も伺う様にしている。	利用者と家族の意見や要望を、面会時や家族会・運営推進会議で聴いている。また、意見や要望を聞く糸口になるよう、月1回のコスモス便りに手書きの手紙をつけて送付している。利用者の些細な変化も必ず家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のケア会議があり、そこで職員の意見や提案を聞く機会を設け反映されている。また、ケア会議以外でも職員の意見を代表者、管理者は常に聞き反映するようにしている。	管理者は毎月の会議だけでなく、日常業務の中でも職員の意見や要望を聞くよう努めている。また、外国人職員の人材育成にも取り組み、職員のやる気や意欲を尊重しながら、その都度、検討と改善に努め、働きやすい環境づくりを行い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等の参加が出来る機会があり、それによって給与水準も考慮している。職員の向上心をもって働けるような職場環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに対して、研修や資格取得の情報を常に提供し、スキルアップできるようにサポートをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や同業者との交流のための講演会などに参加をして、お互いの施設の活動を参考にサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活を知り、ご家族様のニーズに沿うようにしている。また、本人様が困っていることや、不安なことなど日常会話の中で聞き安心して生活していただけるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時はなるべく家族様に訪問していただき、お互いに信頼関係ができるように努めている。ご家族様には明るく挨拶し、困っていること、不安なことがあれば相談にのり信頼していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に家族の方、ご本人様に対して不安にならないように、相談等があれば分かり易く伝え、他のサービスも利用できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護は支え合いであるので、互いに人と人とのつながりを確認していくものだと考え実行している。人生の先輩として上から目線にならないように、言葉使いには気をつけながら共に作業してよい関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族にお便りを出して、本人様の苑での生活状況をお知らせしている。又、家族様に連絡を取り合い、時には外出、外泊等のサービスを利用していただき、家族の絆を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の親族だけではなく知人、友人の面会が少しずつ増えてきているので、継続して来やすい開放的なホームになるよう努めたい。また昔の話をしたりできる限りの支援をしている。	知人や家族が訪問し、一緒に馴染みの食堂や喫茶店に行ったり、住んでいた地域の祭りに参加している。近隣の美容室は料金の優遇があり、地元野菜を置いている商店は、利用者でも買い物がしやすく、地域全体が馴染みの関係継続に協力的である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで利用者様同士と一緒に過ごしていただき、良い関係を持てるようにしている。時には穏やかであり、時には認知症の状態のトラブルがある場合にも職員が間に入り円滑な関係を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された利用者様やご家族の方に対しても出遭えれば声をかけて変わらぬ関係を保っている。また、入院された方は見舞いに行き、ご家族様に対しても相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本院の意向や希望、願いを普段の生活から聞きできる支援を実践しており、利用者にとって一番良いと思われる暮らしをしていたりするように努めている。	職員は日常会話の中や行動から、利用者の思いを把握し、「意向ノート」に記している。把握が困難な利用者は家族からの情報を得て、職員間で共有し、本人本位のケアに繋げている。	利用者の希望や思いを書き留める「意向ノート」が作られている。利用者の思いを叶えられるよう、職員間で話し合いながら、有効に活用されることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境などの情報をもとに本人からもお話を聞き、把握するように努めている。また、家族様との信頼関係やご本人様とのコミュニケーションは大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に看護職員が隣接している医院と連携をとり、利用者様の健康状態や心身状態を把握している。全職員が申し送りやケア会議等で情報を共有し対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を取り入れながらケア会議やそれ以外の話し合いを十分にしてお互い良い介護サービス計画立案に結び付けている。	利用者と家族の思いや意向を聞き、担当者の意見も反映させながら、介護計画を作成している。また、モニタリングを行いながら、次のステップに向けての支援をケア会議で確認している。本人と家族が望む「穏やかで安心した生活」が維持できる計画を基本とし、個別支援にもつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をすることによりケアの見直しをして、職員同士申し送りにて情報を共有している。また、ケア会議でも職員間で話し合い、見逃さないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の方とグループホームの枠に収まらない一人ひとりご本人に合わせた支援を行っている。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受入をして利用者様に楽しんでいただき、馴染みの美容院や、買い物、レジャー施設などの遠足など様々な外出支援に心がけ、暮らしの支えになるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が入所前に通院されていた病院等への受診は継続的に支援している。	入居時に、かかりつけ医について本人・家族に説明している。従前のかかりつけ医への受診も可能としている。ホーム隣りが協力病院であり、定期的な訪問診察があり、体調不良時には適切な医療が受けられるよう支援し、家族の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護で日頃気がついたことは看護師に報告して相談している。受診が必要な時は指示を受けて主治医のと連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人ご家族の承諾を得て基本情報や医療に関する情報提供を行っている。その他の情報は病院に行き、看護師、医師に情報提供をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の家族の意向を聞き、その要望に添えるよう支援している。また、体調変化時にはその都度連絡して対応している。	重度化や終末期の方針を本人・家族に伝え、同意書を交わしている。医師と相談をしながら、家族の意向を聞き、利用者に寄り添いながら静かに見守り、ホーム全体で看取り体制に取り組んでいる。昨年は家族の協力の下、3人の利用者の看取りを行い、グリーンケアにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には訓練はしていないが、マニュアルがあるので、実践に対応できるように心がけている。状況によっては医師や看護師の指示をもらい対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練や災害時の訓練を定期的に行っている。地域の自治会の方も参加して協力をしていただいている。	年2回の災害避難訓練は、同法人の事業所が合同で行っている。地域住民の参加を得て、役割分担を明確にし、住民には、避難した利用者への声かけを依頼して訓練を行っている。発電機の活用や炊き出しも行っており、福祉避難所の指定も受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重しそれぞれの方にあった言葉かけや対応はしている。しかし、業務に追われた時は押し付けになってしまうときがあるので、気を付けるように努めている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、自尊心や誇りを損ねないよう、言葉遣いや対応方法に配慮するよう努めている。特に入浴・排せつ介助、着替え時には、利用者の羞恥心に配慮しながら、出来る限り同性職員での対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちを表現できるような場を作り、自己決定が出来るように支援している。 日常の会話や仕草、表現等で察することが大切でその意味でのコミュニケーションや観察をする能力がとわれる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、尊重し、希望を聞きながら日々の生活を思い思いに過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類、髭剃り、散髪など、身だしなみに心がけその人の好みや希望に沿って支援している。また、定期的に美容院に行ったりしていただき、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理補助やテーブル拭き、お盆の片づけ等を手伝っていただいている。また、食事がおいしくなるような声掛けや音楽をかけたり等雰囲気作りをしている。	日々の食事は管理栄養士の献立を基に、専門の職員が調理し提供している。季節の行事食やおはぎ、たい焼き、たこ焼き作りなど、おやつ作りを利用者も一緒に楽しんでいる。ホーム便りとともに、献立表も同封し食事内容を家族に伝えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士、調理師と共に日々利用者様の状態に応じ、食事量、形態を利用者様に合わせた食事にして看護師、医師の指示に応じながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを習慣にして、自分でできる利用者様はやっていただいている。歯科衛生士の職員からのアドバイスを得ながら利用者様に合わせた口腔ケアを行っている。また、歯科医院の訪問による指導も実施している。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けやご本人の意思を尊重しながらトイレで排泄をできるだけしていただくよう配慮している。また、排泄確認表を記録して利用者様の排泄パターンの把握に努めている。	トイレでの排泄を基本に、個々の排泄パターンに合わせ、自尊心に配慮しながら声かけと誘導を行っている。夜間は、安眠に配慮して排泄用品を使い分けたり、安全の為、ポータブルトイレを利用する人もある。留置カテーテル挿入の利用者も受け入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時水分をとっていただいたり、フロアを歩いていただいたり、その人に合った運動をしている。特に困難な方は排泄パターンを把握し、食事量などチェックして栄養士の支持等もらいながら、便秘にならないよう気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その日の状態や希望によって臨機応変に変更して対応をしている。	入浴は週2回としている。浴室の窓から庭の木々を眺めることができ、ゆったりとした気分で入浴ができる環境にある。機械浴もあり、身体機能の低下した利用者も湯船につかり、満足できる入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は一時間ほど休んでいただき、一人ひとりに合わせた生活習慣を把握している。安心して寝ていただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりの薬を理解して、服薬の症状の変化に注意し看護師と連携をとっている。職員は間違えてしまわないよう常に確認し、医師に相談、指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯を干したり、たたんだり、一人ひとりに合った仕事をしていただいている。定期的なたこ焼き、たいやき等、作りながら楽しんで食べていただけるような支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や体調を考慮して家族にも協力していただき支援している。また、散歩、外気浴、買い物支援等最大限行っているが、遠くへ行ったり文化的なことは難しい為なかなか行えない。	敷地内を散歩したり、ベランダでの外気浴など、体調や気候により選択できるよう声かけしている。道の駅へ買い物に出かけたり、家族の協力を得て、一緒に外出している。利用者に過度な負担にならない範囲で、年間行事の遠足や花見等への外出を支援している。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、トラブル防止のため苑で管理している。必要な場合は職員が同行し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯や事務所の電話など、その人に合った形で自由に電話を使っていただき、家族との関係が途切れないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの窓が大きく広い庭が見渡せ、庭には季節の花や木があり池の鯉を見に行かれたりと日々の四季を感じ取ることができる。共有のフロアの壁には四季に合わせた装飾をして季節感を持っていただける取組をしている。	玄関には季節の花を飾り、共用空間の大きな窓からは、明るい陽ざしが差し込み開放感ある環境である。壁面や通路には、職員と利用者の共同作品や白鳥踊りの切り絵が飾られている。利用者が、ゆったりとしたソファや好きな場所で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭のテラスや好みの場所に座られる場所があるので気の合う同士がお話をされたり、1人になりたいときは部屋で休まれたりと思いいの時間を過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や馴染みの生活用品を持参していただき、居心地の良い空間となるよう心がけをしている。	利用者は、馴染みの家具やテレビ、鏡台等を持ち込み、使い易く安全に配置している。備えつけの棚には、思い出の写真や手づくり作品などを飾り、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送ってもらう為に手すりをつけたり、トイレの表示など、利用者様が混乱して不安にならないように工夫をしている。		